

一般投稿論文

**生命力に共振する最適な住環境****The best environment resonates with our vitality**

～ 古来の叡智と現代科学の融合 ～

The harmony between ancient wisdom and modern science

株式会社トータルヘルスデザイン Total Health Design Co., Ltd.

代表取締役 岩月 淳 President Jun Iwatsuki

**要旨**

心と体の疲れを癒してくれる住環境。1日の多くの時間を過ごす住環境を整える事で、健康、人間関係、食品へと良い影響が連鎖していきます。

人々の健康と生命力を高める癒しの場づくりには、自然素材や抗酸化力を持つ新しい技術、生命エネルギーを含む商材などを積極的に活用する必要があります。

住環境に係わる問題は、人々の健康から自然環境に至るまで、幅広い社会のテーマとして考えていきたいものです。

**1-1 「衣」「食」「住」**

「衣食住」は生活に必要な三要素であり、どの要件が欠けても健康生活は成り立たない事を表しています。

「衣」において、帯電することで生体電流に負荷をかける化学繊維から、天然繊維を見直す動き、素材のエネルギーを活かした天然染料の活用、遠赤外線を発生する素材を組み込んだ繊維の開発などがあります。

「食」については三要素の中で最も関心が高く、健康管理のための様々な食事療法や補助食品が提案されています。

しかし「住」についての関心は意外と薄く、健康生活に適した住環境の定義はありません。

その為、近年化学物質を多用した建材が次々と開発され、自然素材の普及は滞る傾向にありました。同時に、アレルギーや化学物質過敏症などの病気を訴える人々が増えてきたのです。

ここには、諸外国に比べ日本の法規制が遅れた

ことが関係しています。

住宅を建てる際に使用される、特定の化学物質を制限する法令は、平成15年7月によりやく施行されましたが、規制前の建築物では、今も続く化学物質の揮発によって、多くの人々が健康を害しています。

ビニールクロスや、通気性の悪い工法によるカビの発生も課題です。アメリカでは蓄膿症の97%を占める原因として、仕事場や住まいのカビが関連しているという研究結果が出ているそうです。

また、日本には電磁波の規制がなく、欧米のガイドラインから大きく外れる電磁波環境がいたるところに存在しています。

現代医学と東洋医学を駆使しながらアレルギー患者専門の治療をされている、丸山アレルギークリニックの丸山院長は、「当院の患者が訴える不調の9割は、電磁波が原因です」と指摘しておられます。

住環境の化学物質や電磁波などが原因で、多くの人々が不調に悩んでいるということです。

どんなに優れた医療を施しても、「衣食住」という基本が全て整わなければ、健康的な生活を維持することは難しいといえるでしょう。

**1-2 予防医学と住環境**

「衣食住」の三要素において、「住」が希薄になっている理由には、住環境と健康を関係づける根拠を明確にしづらいことをはじめ、建材の輸入や開発に、国策や利権が深く関係し対応が取りにくいこと等があげられます。また、今日までの医

学が「如何にして病気を治すか」ということのみ、焦点が絞られてきたことも原因として考えられます。

このような情勢を背景に、住まいと健康をテーマとした重要な検証も進んでまいりました。

「コンクリート住宅は9年早死にする」。これは島根大学や静岡大学が、マウスを用いて研究を重ね辿り着いた内容で、コンクリートから発生する冷たい輻射熱によって、体温が奪われてしまうことが原因として取り上げられています。

また、川崎医科大学では、マイナスイオンが優位な環境において、免疫力の指標となるNK細胞が活性化するという論文が出されています。

NK細胞は、生まれながらに殺傷能力を備えているリンパ球の一つで、他の免疫細胞とは異なり、体の中を巡回して、癌細胞を攻撃する免疫細胞といわれています。

同時に、マイナスイオンの豊富な環境は、静電気の発生を抑え、ホコリやダニを原因としてアレルギーに悩む人々の、病状を軽減してくれるそうです。

住み心地の良い住環境には、その土地が持っているエネルギーも関係しています。

地磁気と生体の関係を掲載した「エネルギー医学の原理」という書籍には、「地磁気と外部からのエネルギーをすべて遮断した環境に住んだ場合、多くの人の健康が阻害された」という内容の報告があります。

## 2-1 土地の磁場を考える

住みよい住環境を考える上で、その土台となる土地のエネルギーを考慮することは大切です。

古来、人は直感的にエネルギーの高い安定した土地を選び、神社・仏閣をそこに設けるなど、土地の持つ力を重視してきました。

乱開発が進み、人が住むに相応しくない土地や、高圧線などによる電磁波の影響が増える中、土地のエネルギー改善を必要とするケースが増えてきています。

また、地中に存在する鉱物や、地下水脈から発

せられる異常磁場などによって、地磁気が不安定になっている場所もあります。

土地には、人や動植物の生命力を高める「イヤシロチ」や、住居や耕作地には適さない、土地のエネルギーを失った「ケガレチ」があるといわれています。

昭和初期に活躍した物理学者・檜崎皐月（ならさきさつき）氏が提唱したこの概念は、全国の土地約1万2千箇所の実測調査に基づいています。地表面の電気分布を調べ、その特徴とそこに生育する植物や生き物の生育状態を照らし合わせることで、その関連性を解明していったと伝えられています。

西洋でも健康と住環境の関連性について積極的な研究があり、土地の発する強い磁場を有害なものとしてきました。土地の異常磁場をはじめ、高圧線や家電製品が発する有害電磁波などから受ける影響は、「ジオパシック・ストレス」と呼ばれています。

ヨーロッパでは、経絡を流れるエネルギーの測定を行う、EAV情報医療システムが活用されていますが、その開発者レイバー氏の長年の臨床によれば、慢性疾患の約90%は「ジオパシック・ストレス」に起因するそうです。

自然環境には微弱な電気や磁力が存在していますが、私たちの体も脳波や神経活動と共に、微弱な生体電流によってコントロールされており、この流れが正常であれば健康に、異常であれば病気の方向に進むことになります。

つまり、私たちの健康状態は、常に環境の電気的な変動の影響を受けているのです。

動物は、土地のエネルギーを敏感にキャッチするといわれ、アメリカインディアンはこの習性を利用し、彼らが寝た場所を安全な場所として、テントなどの住処を設ける位置を決定していたという話があります。

さらに、古くから地球には縦横に交差するレイラインが存在すると考えられ、遺跡や協会、神社や仏閣などの神聖な建物は、そのレイライン上に数多く配置されていることが確認されています。

## 2-2 イヤシロチの測定

こうした背景をうけ、土地や環境の持つ磁場の影響が注目されつつあります。

土地が「イヤシロチ」なのか、「ケガレチ」なのかを知るには、視覚でも判断する方法があります。山並みの配置や、森林、街路樹から生け花などの生育状況、コンクリート・アスファルト・鉄などの劣化速度を観察することからも、土地の状態がわかります。植物もジオパシク・ストレスの影響を受けるので、部分的に育ちが悪い場合は、磁場異常が考えられるのです。

さらに研究が進み、測定機器も活用されています。地表面に対し垂直方法の地磁気の強さを一定間隔で調べることにより、そのばらつきを数値で確認する事が出来るようになりました。



{ 写真 ① 磁場の測定 }

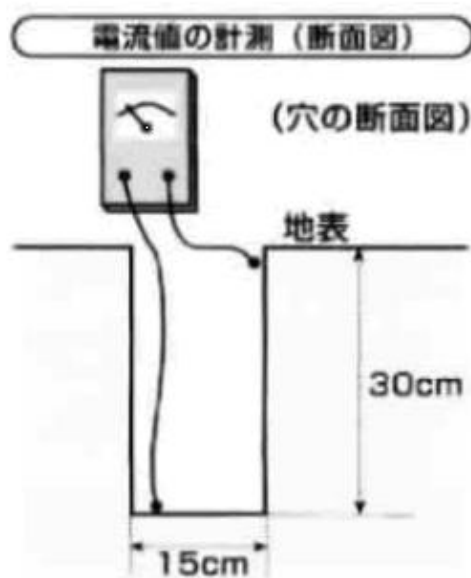


{ 写真 ② 磁場測定器 }

大地電気も、地電流の測定によって調べることが可能です。

直径 15 cm、深さ 30 cm 程度の穴を掘り、

地表面から穴の底に至る電流の方向を測定した際、電流が地表から地中に流れる場合、電子がその逆方向に流れるため、その土地は電子が豊富に満ちた還元状態を保つ環境であるとの認識ができます。

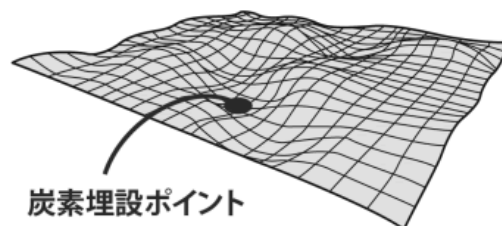


{ 写真 ③ 地電流の測定 }

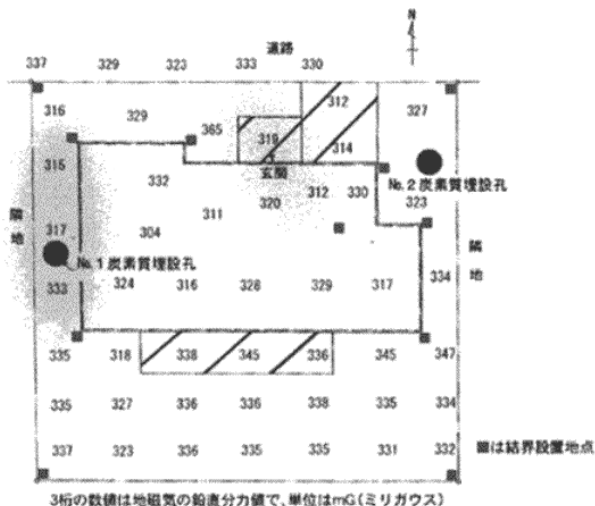
## 2-3 イヤシロチをつくるには

こうした判断によって土地に異常が見られる場合には、その場のエネルギーを調整し、高める技術がありますが、これを「イヤシロチ施行」と呼んでいます。

まずは土地の地磁気を測定し、そのバラツキから土地のウィークポイントである「ツボ」を特定します。そのツボに、特殊なブレンドを施した専用炭素質を埋設し、地中内で半導体の役割を持たせることで、地表面の電気や地磁気の乱れを改善し、大きな磁場変動も軽減させることができます。その他、高いエネルギーを持った商材の配置や、微生物による土壌の活性化など、様々な技術が開発されています。



{ 写真 ④ 磁場測定で確かめた磁場の起伏 }



{ 写真 ⑤ 磁場測定により定められた土地のツボ }



{ 写真 ⑥ 専用炭素質の埋設 }

### 3-1 抗酸化環境をつくる

抗酸化の視点から見る場の特性には、「活性化環境」と「劣化環境」があります。これらは人が感じる「居心地のよさ」によって、ある程度区別することができますが、主観も入り判断には個人差を伴います。

「活性化環境」は、生き物が過ごしやすく元気になり、居心地がよいと感じる場所をいいます。その反対に「劣化環境」は、なんとなく居心地が悪く、物は腐敗しやすくて、空気はジメジメして重たい感じのするところです。

「活性化環境」を構成する要素に、空気中のマイナスイオンや場が持っている抗酸化力等があります。

マイナスイオンについては、電気製品や壁材など様々な取り入れ方があり、測定結果に基づいて判

断する事ができますが、場が持っている抗酸化力については、今のところ測定方法がありません。大抵は人々の感覚、間接的な検証、素材が出来上がるまでの研究開発過程を知ることで判断されています。

間接的な検証の一例に、食物の発酵や腐敗を起こす、微生物の反応を見る方法があります。

大豆は発酵すると納豆になりますが、腐ると腐敗臭を出す生ゴミになります。抗酸化力を持つ「活性化環境」は発酵の方向に手助けし、「劣化環境」にあるものは腐敗しやすくなるのです。このように食物が発酵の方向に変化するか、腐敗の方向に変化をするかを観察することで、その環境が持っている特性を知ることができます。

抗酸化力の強い空間では、物が腐敗しにくだけでなく、病気の原因となるウイルスや細菌なども繁殖しにくい環境であると考えられます。

### 3-2 自然界が作る抗酸化力

生い茂る森林の栄養素を蓄える山林の土は、長年かけて蓄積した微生物の酵素を含み、その酵素を吸収した樹木には、精油や木酢液など抗酸化効果をもつエキスが詰まっています。

日本最古の寺院といわれる奈良県の法隆寺は、1400年以上の歴史を通して、樹木の持つ抗酸化力を証明しています。

農業では農薬や化学肥料に頼らない、微生物の力を活かした土作りが見直されていますが、このような環境で育てられた農作物は、土壌から吸収された酵素を多く含んでいるため、腐敗しにくく新鮮さを保ちやすいのが特徴です。

醸造工場では、時間をかけた自然な発酵を行うことで、出来上がった食品には豊富な酵素が含まれ、添加物に頼ることなく保存することができます。

良質な微生物の代謝物「酵素」は、すぐれた抗酸化力もっていると考えられるのです。

### 3-3 抗酸化力を住環境に活かす

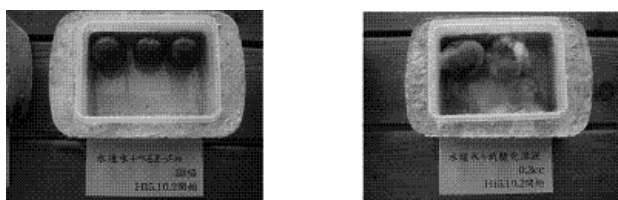
抗酸化力を持つ素材は、食品から建築資材に至

るまで多岐にわたります。

健康食品の分野では、抗酸化力に優れたサプリメントや食材が、体の中につくられた活性酸素を消去するとして注目されています。また、腸内微生物の生育環境を整え、整腸作用を促し、体の老化を防止する働きも期待されています。

住環境に抗酸化力を持たせるには、抗酸化力に優れた建材の活用があります。

実験用のコンクリートブロックに千分の一程度の僅かな酵素をいれておくだけで、その上に置いてある食品は腐敗しにくくなります。これは酵素を含んだ有機野菜の鮮度が長持ちすることと同じで、それ自体に抗酸化作用がなくても「活性化環境」にあるものは腐敗しにくくなるのです。



{ 写真 ⑦ コンクリート実験 40日経過したトマトの比較 }

「活性化環境」をつくるには、建材に抗酸化力を持つ素材を幅広く活用し、住環境全体に抗酸化力を持たせることが大切です。

住環境を活性化させる素材には、天然の樹木をはじめとして、高エネルギーを持ったセラミックパウダーや住宅用抗酸化エキスを、ノリや壁材などの建築資材に混ぜる方法などもあります。

新築の場合、それらの抗酸化資材を建物の基礎に使われるコンクリートに入れる事で、建物全体を幅広く活性化させることができ、リフォームの際は壁の塗料、壁紙を貼るノリなどにも混ぜる事が出来ます。抗酸化資材を混ぜた塗料をつくり、食品貯蔵庫の壁面、水道管や電気配線、ガス管に至るまで、建物の細部にまで使用することで、広範囲に抗酸化力が得られます。



{ 写真 ⑧ 抗酸化材、水道管への活用 }



{ 写真 ⑨ 抗酸化材、壁への活用 }

#### 4-1 電磁波の問題を考える

住宅建材に使用される化学物質や、家電製品からの電磁波など、健康を害するマイナス要因は、社会の問題として広く知れ渡るようになりました。

それらに関連する商品を製造する企業は、国が規制する法律に準じて開発を行っていますが、法の規制が不十分な場合、消費者自身が情報を入手して自らを守る必要があります。

様々なアレルギー疾患が増加の一途を辿る中、平成15年に、住宅の化学物質を制限する法令が施行され、多くの建材メーカーは安全な材料の提供に努めてまいりました。

しかし、その後もアレルギー疾患の数が減らないことに、電磁波の問題を指摘する声が出ています。

電気使用量の増加に対し、アレルギー疾患の増加

推移が、ほぼ比例の状態であることも注目すべき事実です。

渡り鳥が正確に海を渡ることができるのは、脳の中に磁性体があるためといわれていますが、人間の脳にも微小な磁性体が存在しています。

東洋医学で知られる針治療の基本理論は、人間の生体を流れる微弱な電氣的エネルギーが前提となっており、人体にはシナプス電位と活動電位という2つの微弱な電位が存在します。

私達の身の回りには様々な電化製品から電磁波が発生していますが、電気は電位が高いところから低いところへ流れる性質があり、電位の低い人体は帯電しやすくなります。

帯電すると皮膚表面は電気で覆われ、かゆみやしびれなどの違和感をはじめとして、様々な障害を生み出すことが懸念されています。

#### 4-2 大きく異なる世界の常識

2007年にWHO（世界保健機構）は、電磁波の有害性を認め、海外では電磁波に対する様々なガイドラインが設けられています。

最も厳しい設定はスウェーデン政府によるもので、交流電場を25 V/m以下、交流磁場を2.5 mG（ミリガウス）以下という位置付けがあります。

ノーベル医学賞などの選定を行うスウェーデンの研究施設、カロリンスカ研究所は、「高圧線の近くに住む子どもたちに、3.8倍も白血病が増えている」というレポートを発表し、世界に衝撃を与えました。

電磁生体学の世界的権威ロバート・ベッカー博士は、電磁波の安全基準は1 mGにすべきであると主張されているそうです。

#### 4-3 電磁波とうまく付き合うには

生活を豊かにしてくれる電化製品は、正しい知識と共に活用の範囲を広げていきたいものです。

電磁波には「電場」と「磁場」の2つの性質を持つ波がありますが、電気の影響が及ぶ範囲を「電場」といい、磁気の影響がおよぶ範囲を「磁

場」といいます。

両方、もしくはどちらか一方からの影響があり、その対策には、それぞれの性質を把握しておく必要があります。現在電磁波の害を軽減するためには、物理的な対処法と、臨床で効果が期待されているエネルギーの性質を用いた方法があります。

物理的な対処法には、「発生源から離れる」「使用時以外はコンセントを抜く」「アースを取る」などがあります。発生源から離れると、電場と磁場の影響を飛躍的に軽減する事ができ、逆に電気毛布や電気カーペットなど、密着して使用するものほど、身体への影響も大きくなります。

ホットカーペットにおいては、1000 V/mの電場と300 mGの磁場を発生している物もあり、注意が必要です。

コンセントがさされている電化製品は、未使用時であっても電場が出ている事がありますが、機器からアースを取れば使用時であっても電場を抑えることができます。

アース処理は冷蔵庫や電子レンジなど、アース配線の付いた機器に限ったものではありません。電化製品本体の金属部分にアース配線を取り付け、コンセントのアースに接続すれば、多くの電化製品について電場処理が可能となります。

床や壁の中を通る、電気配線から発生する電磁波に対しては、伝導性のシートを使ったアース施工が可能です。電磁波過敏の方や、長時間滞在する寝室などにお勧めです。

その他に良質なエネルギーを放つ商材の活用があります。

電気の通り道である配電盤や電気配線に、抗酸化力を持つ塗料を塗る。電磁波を発生する器具に高エネルギーの商材を取り付ける等、電磁波が与える人体への影響を緩和する可能性が期待されています。

#### まとめ

生命力に共振する住環境づくりには、様々な角度からの施策があります。

古来より、「釈迦」や「行者」は、悟りを開く

場として聖地を探し続けました。

私達人間の意識の向上に、大宇宙に存在するエネルギーとの共振があるならば、住環境に滞る不必要なノイズやエネルギーを可能な限り排除することに加え、生命力に満ち溢れた空間を目指すことが理想です。

法律で示された基準値を参考に、科学的・物理的な要素に対処するだけでなく、新しい技術を積極的に活用することも大切ではないでしょうか。

悠久の太古から伝わる人類の叡智に学び、それに科学的な視点を加えて、「見えない世界」と「見える現象」からの総合的取り組みが、「生命力に共振する住環境づくり」に必要なだと考えております。



{ 写真⑩ イヤシロチ施行で建設した京都本社のオフィス }

#### 参考文献

「インターネット情報医療」陰山泰成著 たま出版

「環境が脳をつくり、脳が免疫をかえる」松永修岳著 光社

「やっぱり あぶないIH調理器」船瀬俊介著 三五館

「奇跡の杉」船瀬俊介著 三五館

「エネルギー医学の原理」ジェームズ・オシュマン著 エンタプライズ

#### 【著者プロフィール】

株式会社トータルヘルスデザイン 代表取締役

岩月 淳

サトルエネルギー学会 理事

国際和合医療学会 理事

1964年名古屋生まれ

1992年1月 株式会社トータルヘルスデザインに入社

2008年10月 代表取締役に就任

「美と健康」をテーマとして、環境や人に優しく気に満ち溢れた商材、豊かな社会生活を送るために有益な情報を、各種情報誌、セミナー、イベントなどの開催により、幅広く世の中に伝える。毎月無料で発行する月刊誌、「THD LIFE」は、時代の流れや未来を開く意識改革のヒントなど、様々な角度からの情報提供を続けている。